

2/16 金

昨年GDP 1.7%増どまり

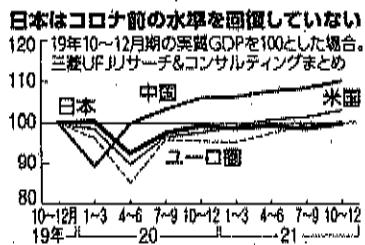
欧米に比べ回復遅れ

2021年10~12月期の国内総生産(GDP)が、物価運動を除いた実質で、前年比1.3%増、年率換算5.4%増となりた。プラス成長は四半期ぶり。21年通年でも1.7%のプラス成長となりたが、5%超の欧米との差は大差ない。1月以来新型コロナのオミクロン株の感染拡大も直面し、急減速している。

▼2面=第6波の影、7面=専門家の見解

10~12月期 年5.4%増

実質成長率	2021年 7~9月期 ▼0.7% (▼2.7%)	2021年 10~12月期 1.3% (5.4%)
個人消費	▼0.9%	2.7%
住宅投資	▼1.6%	▼0.9%
設備投資	▼2.4%	0.4%
政府支出	1.1%	▼0.3%
公共投資	▼3.0%	▼3.3%
輸出	▼0.3%	1.0%
輸入	▼0.9%	▼0.3%
名目成長率	▼1.0% (▼4.1%)	0.5% (2.0%)



日本はコロナ前の水準を回復していない

約が大きかった飲食店や宿泊施設などに需足が戻った。設備投資はソフトウェア投資などが上向き、0.4%増。部品不足などの解消で自動車の生産も戻り、輸出は1.0%増だった。

内閣府が15日、1次速報を発表した。10~12月期に大増へ改善したのは個人消費で、前期比2.7%増だった。緊急事態宣言が昨年9月末までに解除され、制

算で541.3兆円となりた。コロナ禍前の19年10~12月期の542.2兆円は1兆円ほど縮かなかつた。消費増税前の19年7~9月期の557.6兆円と比べると16兆円以上の差がある。コロナ禍前の水準に回復済みの米国や中国、ユーロ圏に比べ、遅れている。

21年通年の実質成長率は1.7%で、3年ぶりのプラス成長だった。だが、マニス4.5%に落ち込んだ20年からの改善度合いは小さい。米国の成長率

・7%やユーロ圏の5.2%。
%・英國の5.5%、中國の8.1%と比べても、回

復力の弱さが歴史的だ。
足元ではオミクロン株の世界的な蔓延率が依然で、ガチ込み、あるいは回復が遅れる可能性がある。(吉澤大)

約が再び広がっている。世

界も相次ぐ。再び消費が落ち込み、あるいは回復が遅れる